

授業科目名	検査・測定Ⅱ	授業形態	演習	配当学期	2年（前期）
担当教員名	松田 伍央、佐々木 健太	単位数	1単位	時間数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕 評価の概念と基本的・一般的な評価法を学習する。 また、障害像の把握に必要な評価技術の方法について学習する。</p> <p>〔学習目標〕 評価の目的、方法、留意点について理解する</p>				
授業回数	授業内容				
第 1 回	徒手筋力検査（上肢・手指①）				〔松田〕
第 2 回	徒手筋力検査（上肢・手指②）				〔松田〕
第 3 回	徒手筋力検査（下肢・体幹①）				〔松田〕
第 4 回	徒手筋力検査（下肢・体幹②）				〔松田〕
第 5 回	片麻痺運動機能評価①				〔松田〕
第 6 回	片麻痺運動機能評価②				〔松田〕
第 7 回	認知機能評価①				〔佐々木〕
第 8 回	認知機能評価②				〔佐々木〕
第 9 回	高次脳機能障害の評価①				〔佐々木〕
第 10 回	高次脳機能障害の評価②				〔佐々木〕
第 11 回	高次脳機能障害の評価③				〔佐々木〕
第 12 回	高次脳機能障害の評価④				〔佐々木〕
第 13 回	高次脳機能障害の評価⑤				〔佐々木〕
第 14 回	高次脳機能障害の評価⑥				〔佐々木〕
第 15 回	高次脳機能障害の評価⑦				〔佐々木〕
評価方法	実技試験（100%）				
教科書 参考図書	新・徒手筋力検査法 原著第9版（協同医書出版社） 〔教科書〕 図解 作業療法技術ガイド 第3版（文光堂） リハビリテーションにおける評価法ハンドブック（医歯薬出版）				
	〔参考図書〕 標準作業療法学 作業療法評価学（医学書院） 脳卒中の機能評価SIASとFIM 基礎編（金原出版）				
履修上の 留意点	出席が必須条件で実技を中心に進めます。				
メッセージ	評価は訓練や目的を立案する上でも重要な科目となります。臨床実習でも必ず必要になってくる科目ですので1年時に評価の礎をしっかりと築いてください。				